

人権・同和教育だより第 108 号

幸せへの道

同和問題解決のために Ⅲ

～全国水平社創立 100 周年 先人たちの思いを引き継ごう～

2022年3月、全国水平社創立から100年を迎えます。そこで、水平社運動について整理しました。先人たちの思いを受け継ぎ、「部落差別のない社会の実現」に向け、取組を進めていきましょう。



1 水平社運動への道

明治の終わり頃、部落差別の解消を目指して様々な運動が起こる。

明治の終わり頃

部落改善運動

被差別部落の人々自らが生活態度を改めたり、経済的自立を図ったりすることによって部落差別の根拠をなくし、問題の解決を図ろうとした。

部落改善事業

政府は、部落改善運動を利用し、被差別部落の人々自らが生活態度を変えるよう求めた。

1912年

やまとどうし かい

大和同志会(奈良県)の結成

解放に向けた運動を全国的な規模で展開した。

融和運動

差別の原因(生活環境・教育水準・雇用状況などの格差)を被差別部落の人々の側に求めるとともに、部落外の人々に対しては差別意識の改善を呼び掛けるものであった。

差別問題の解決に一定の役割を果たしたが、差別の根本的な解消にはつながらなかった…。

差別の原因は自分たちにはない。同情では解決しない。

政府にたよらず、自分たちの力で人間としての尊厳を取り戻し、差別からの解放を目指そう。

水平社運動へ

2 全国水平社の創立と水平社運動

全国水平社の創立者の一人である西光万吉は、他の被差別部落の人々と同じように、幼い頃から差別を体験した。その差別から逃れたい一心で各地を転々とするが、安住の地を得ることができず、故郷に帰ってくる。

郷里に腰を落ち着けてからは、同じ被差別部落出身の阪本清一郎や駒井喜作たちとともに差別解消の道を模索し始める。そして次第に、「自らが差別解消に向けて立ち上がるべきだ」という考え方に傾いていく。

西光万吉、阪本清一郎、駒井喜作たちを中心に結成された自主的な団体。燕のように自由にどこへでも羽ばたいていけるようにという願いがこめられている。

1920年

つばめ
燕会の結成

1921年

水平社創立事務所の設立

『よき日のために』というパンフレットを発行して、全国の被差別部落の人々に団結を呼び掛けた。

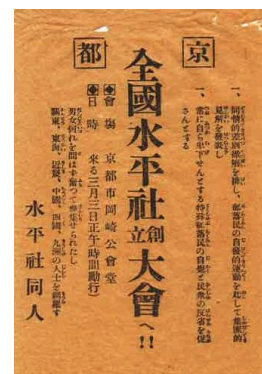
1922年

全国水平社創立大会

1922(大正11)年3月3日

全国からあふれんばかりの大衆が、京都に集い、全国水平社創立大会が開催された。この日、「全国水平社創立宣言」が読み上げられ、日本の歴史に新たなページを加えた。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で締めくくられるこの宣言は、「人間はいたわるべきではなく、尊敬すべきものである」という精神に立ち、被差別部落の人々だけでなく、差別に苦しむすべての人々の解放への思いが込められたものである。

「全国水平社創立宣言」は、日本で最初の人権宣言とも言われています。まさに、差別を受けてきた人々が団結して解放に立ち向かう出発点であったのです。



全国水平社創立大会チラシ
水平社博物館蔵

3 全国水平社の創立に立ち上がった人々

よねだ とみ
米田 富

奈良県五条市出身。全国水平社創立大会に参加後も各地の水平社結成と機関誌「水平」の発刊に尽くした。

こまい きさく
駒井 喜作

奈良県御所市出身。全国水平社創立大会で「全国水平社創立宣言」を朗読する。創立後は執行委員として活躍する。

さいこう まんきち
西光 万吉

奈良県御所市出身。「全国水平社創立宣言」を起草する。また、社旗である「荊冠旗」をデザインする。



全国水平社創立発起者集合写真

後列左から、米田富、駒井喜作、西光万吉
前列左から、平野小剣、南梅吉、阪本清一郎、桜田規矩三
水平社博物館提供

ひらの しょうけん
平野 小剣

福島県福島市出身。「全国水平社創立宣言」の「綱領」の第一と第二を手掛けた。

みなみ うめきち
南 梅吉

滋賀県近江八幡市出身。全国水平社初代中央執行委員長となる。

さかもと せいichろう
阪本 清一郎

奈良県御所市出身。「水平社」の名称を考案した。創立大会で、経過報告を行った。

さくらだ きくぞう
桜田 規矩三

京都府京都市出身。自宅に水平社創立準備事務所を設置。創立大会で、綱領を朗読した。

この他にも全国水平社の創立に関わった人がいます。多くの人たちが協力して全国水平社創立を成し遂げたのですね。



4 愛媛の水平社運動

全国水平社の創立は、被差別部落の人々に勇気と希望を与えるとともに、差別に苦しむすべての人々の心のよりどころとなった。以後、差別解消を目指して、全国各地で水平社の支部が設立された。

愛媛県では、1923(大正12)年4月18日、松浪彦四郎や徳永参二らの有志によって、全国水平社支部(後の愛媛県水平社本部)が温泉郡(現東温市)に設立された。当日の発会式は、開会の辞に続いて、支部宣言及び綱領の朗読、役員による演説、諸課題についての協議等が行われ、盛会のうちに閉会した。その後、県内各地で支部の設立が進んだ。

本県水平社は、他県の水平社と提携するとともに、差別問題の解決、水平社運動の宣伝、労働組合や農民組合との連携、機関誌の発行等を通じて差別解消に努めた。

愛媛の水平社運動の広がり

1922(大正11)年	全国水平社創立大会が開催される。
1923(大正12)年	現在の東温市に全国水平社支部(後の愛媛県水平社本部)が設立される。 現在の伊予市、西条市、松山市に支部が設立される。
1924(大正13)年	今治市に支部が設立される。 全四国水平社大会が松山市で開催される。
1925(大正14)年	現在の四国中央市、愛南町に支部が設立される。
1926(昭和元)年	今治市公会堂で愛媛県水平社大会が開催される。県水平社大会の決議により、少年婦人水平社が設置される。
1927(昭和2)年	現在の四国中央市で愛媛県水平社大会が開催される。
1929(昭和4)年	現在の大洲市に支部が設立される。
1935(昭和10)年	現在の宇和島市に支部が設立される。

『愛媛近代部落問題資料』より

愛媛県においても、各地で水平社運動が行われたのですね。郷土の先人たちは、どのように差別解消に向けて取り組んだのでしょうか。



5 愛媛の水平社運動を支えた人々



まつなみ ひしろう
松浪 彦四郎
(1895~1983)

温泉郡(現東温市)生まれ。福岡の国民新聞社で記者として勤務。1922年、一時郷里に帰省した時、厳しい部落差別の現実に遭遇し、愛媛県で部落解放運動に身を挺する覚悟を決めた。

1923年、愛媛県で最初の全国水平社支部(後の愛媛県水平社本部)を立ち上げた。

1924年9月20日、全四国水平社大会が松山市で開催され、県代表として徳永参二とともに参画した。

多くの仲間とともに差別解消に尽力するなど、初期の愛媛県の水平社運動をリードした。



とくなが さんじ
徳永 参二
(1883~1935)

兵庫県生まれ。松浪彦四郎らの呼び掛けに応じて、全国水平社支部(後の愛媛県水平社本部)の創立に参画した。これ以降、県内の様々な問題に取り組むとともに、県内各地の水平社支部の立ち上げに尽力した。

全四国水平社大会では、大会を成功させるため、全身全霊を傾けて準備を進めた。

その後も、愛媛県水平社の執行委員長と全四国水平社の執行委員長を兼ねるなど、四国の水平社運動をリードした。



はやしだ てつお
林田 哲雄
(1899~1958)

周桑郡小松町(現西条市小松町)生まれ。全国水平社創立大会に参加後、愛媛県内で水平社運動を起こし、差別問題の実態調査等で各地を歴訪した。

農民運動とも連携を図り、県内初の農民組合である日本農民組合香川県連合会壬生川支部を結成した。

水平社運動、農民運動、労働運動等に尽力し、小松町議会議員や衆議院議員を務めるなど、大衆の絶大な信頼を得た。



やました ともえ
山下 友枝
(1901~1979)

現宇和島市生まれ。祖父や、そのあとを継いだ夫とともに活動し、1935年、水平社岩松支部を設立する。

1947年、女性で初めて岩松町議会議員に選ばれ、その後、町の福祉行政や同和教育の充実に尽力するとともに、部落解放運動に取り組んだ。

参考資料

- ・「えひめ人権の道しるべ」(改訂版)
愛媛県教育委員会
- ・「人間の輪」愛媛県人権教育協議会編



全国水平社創立100年という節目の年に今一度、水平社運動について考えましょう。自由と平等を求めた先人たちの思いを受け継ぐことが私たちの使命です。ともに差別解消を目指して取組を強化していきましょう。